

建國神話と日本精神

蘆谷 蘆村

四

日本精神を申しますのは、觀念的、抽象的な、雲をつかむやうなものではありません。我々の祖先の生活の中にはつきりき現れ、具象化されてゐるものであります。その祖先の生活や事業は、何によつて知ることができるかを申しますと、建國の説話であります。建國説話によらずして、日本精神を知らうといふことは、木に縁つて魚を求むるよりも難いことであります。

建國説話は「古事記」「日本書記」に主として收められてをります。日本の古代の歴史は蘇我氏の亂の時に大部分焼失しましたので、其後に残つてをつた史料や、口傳によつて編んだものがこれらの書物であります。その中「日本書記」は比較的史書らしい體裁を成してをりますが、參考として多くの素材を正直に編纂配列してあり、「古事記」はまつた多くの口傳を材料としたもので、この二書相互に、また同一の書の中にも、矛盾があり、脈絡を缺いてをります。このやうな矛盾、亂雜の中に却つてありのまゝの、昔の姿がうかがはれるので、立派に完成した史書よりは、此の方がよ

いのであります。しかし一般人が、かうした讀物の中からましまつた概念を得ることはなかく骨の折れることでもありますから私はこゝに、建國説話の中にあらはれてゐる日本精神について少し卑見を述べて見ませう。

建國説話の一ばんすぐれた特色は、アマテラスオホミカミを中心とすることであります。アマテラスオホミカミは日神にまします。日本國は、日神の國であります。凡そ宇宙の間に、日ほご貴いものがありませうか。太陽なければ萬物がありません。地上のありまあらゆる物ミ力の根源は太陽であります。この太陽を以て民族の神とし、理想とし、象徴したところにより我等の祖先の民族的性格の偉大さが窺はれたのであります。

太陽は萬物の根源であります。一切のものを包容し、生かしてゆくのが太陽であります。日本精神がそこにあります。この理想がわが國史を通じて流れてをります。「八紘一宇」の精神がこれであります。五個條の御誓文の精神もこれであります。

建國説話は、我々の祖先の、さうした立派な精神を雄辯に語つてをります。外國の建國の歴史を見ますと、大抵は強い民族が弱い民族を討伐し、あるひは主義や、立場を異にするものが相争うて、敵を根こそぎ討ち亡ぼすといふやうな鬭争の歴史で、血なまぐさい記事に満ちてをります。日本の建國説話は、さういふ民族的鬭争の歴史ではありません。イザナギ・イザナミの二神が、宇宙の主宰者として生みたまへる日神が、その廣大無邊の御徳を布き行ひたまふために、天孫を此世に下したまうたのであります。さうして、此國に住んでをつた國津神も、ひさしくイザナギ・イザナミ二神の末でありますから、その御神慮を體して、天孫を奉戴し、天業を翼賛したてまつたのであります。それでありますから、建國説話には、外國の建國譚には見るここの出来ないエピソードに満ちてをります。たゞへば、オホクニヌシノカミが、此土を天孫におゆづりになつた國譲りの話をごらん下さい。オホクニヌシノカミは御先祖ササノヲノカミ以來、非常な御努力を以て國土を經營せられ、勢威隆々としてならぶものなく、其の武備の優秀なることも當時ならびないものであります。天孫の御降臨に際しては、何の未練もなくその國土を献上せられ、自らはたゞ精神界（宗教界）のこごだけをお掌りになりました。しかししてアマテラスオホミカミさまにはいはゞ被征服

者であるオホクニヌシノカミのために、天孫を全く同じ宮殿を造營し、あらゆる優遇をなし、その上に大神御自身の御子であるを傳へられるアメノホヒノミコトを、その宮の長官として仕へしめられたのであります。このやうなこごは外國では、おはなしにも決してないのであります。さういふお話が残つてゐないといふこごは、さういふ事實がなかつたこごを示すばかりでなく、又、國民にさういふ精神、さういふ理想がなかつたこごを示すものであります。外國における、征服された主權者の實際を見れば、このこごは思ひ半ばに過ぐるでありません。

このやうに寛厚な、太陽精神をもつて降臨せられた天孫は容易に九州を皇化にうるほはしめたまひました。日向三代の御事蹟の中には、ほんご戰鬭の記事はないのです。そしてお伽ばなし風な説話の中に、その頃日本の山岳地帯に大勢力をもつてゐたオホヤマツミノカミの子孫、海岸地方に大勢力をもつてゐたオホワタツミノカミの一族が、こごごごく皇化にしたがつたこごが暗示されてをります。それはニギノミコトの妃コノハナノサクヤヒメが、オホヤマツミ族より出でたまひ、ヒコホホデミノミコトの妃トヨタマヒメ、ウガヤフキアヘズノミコトの妃タマヨリヒメが、ともにオホワタツミ族よりいでたまへるこごによつて知るこごができるのであります。

神武天皇の御東征は、イザナギ・イザナニ二尊の御理想、アマテラスオホミカミの御精神を恢弘して、日本全土に天業をおしひろめたまふためでありました。そのためにはながい御準備が要りました。不幸にして、天孫民族の一人であつたニギハヤビノミコトの御打合せが行届いてゐなかつたのミ、そのニギハヤビノミコトが頑冥固陋なナガスネヒコミ御關係のあつたために、平和の裡に大和にお入りになることができず、大きな犠牲をはらはれ、一年近くも戦争がつゞきました。しかし、この位の戦争は、外國の建國神話なごでは問題にならぬ位のものであります。しかも天皇には、まつろはぬ悪者ごもは誅伐したまひましたが、靡き従ふものは一視同仁の愛を垂れたまひ、すこしも御差別をなさいませんでした。オトウカシ、オトシキなごの酋長は戦後重い役目にさりとてられてをります。また、たごへ天孫民族ではあるさへ、一旦は皇命に抗拒したニギハヤビノミコトを優遇なされ、その子ウマシマテノミコトを元帥さなしたまひ、その子孫は世々武門の棟梁なつたのであります。まごごに、大きく、ひろやかな太陽精神のあらはれではありませんか。天皇の御立后にあたつても、出雲民族であるヒメタタライスズヒメを選びたまひしごごき、國民に對して何等差別的なお考がなかつたごごきを物語るものであります。

このやうな、大きな、ほがらかな精神を以て建てられた國であればこそ、それから後、朝鮮、支那の民が争うて皇化を慕ひ、來朝歸化し、その文學や技藝を以て、新らしい文化の建設に貢獻したのであります。わが國がこの太陽精神を以て立つかぎり、世界のすべての美しく善きものは、わが國に鐘まり、そこに生き、榮えるであります。長い間の武門の政治、封建制度は、國民の心を偏狹にし、多分に太陽精神を奪ひ去り、主義を立て、朋黨を立て、相争ひ相凌ぐやうになりましたが、皇紀二千六百年を迎へて、今こそ我々はほんたうに太陽精神に復らなければなりません。さうして、このおほらかな、ほがらかな太陽精神こそは、殊に、保育事業の根本をなすべきものであるご思ひます。

つぎに建國説話のすぐれたる特色の一つを申し上げます。その現實的精神であります。日本の神話の神々は、外國の神話の神々とは本質的にちがひます。私たちの神々は私たちの血をついだ祖先であり、人にして神たる方々であります。外國の神話の神様は人間でなくして、超人間的なものや動物や妖怪が多いのであります。ある神様は牛です。ある神様は猿です。ある神様は牛頭人身です。ある神様は蛇身人首です。ある神様は首が十もあります。ある神様は羽根が生えてをります。かういふ風な動物や、妖怪を、人間

以上に崇拜する民族が、人間としての完全な生活をなし得る筈がありません。それは人生の價値を信ぜず、したがつて人間としての生活の理想をもたないからです。印度人は、今日でも牛を神様として崇拜し、決して牛の肉を食べないばかりでなく、牛を打つことさへできません。最近のことですが、カルカッタの町の大通りで、二疋の牡牛が喧嘩をはじめました。これを引き分ける土民の怒を買ふので、さうすることもできません。電車も自動車も立往生をし、つひに一時間町の交通が杜絶しました。田舎へゆく牝牛の厩舎には花や香を具へ、その尿を糞として用ひ、糞を乾かして神聖な餅をつくります。このやうな國民が、民族的に墜落し、衰亡するのは當然であります。神話は大切なものではありませんが、不健全な神話のあたへる害毒はこの通りであります。

しかるに、我が國の建國神話には、このやうな非人間的非現實的な要素がすこしもありません。その神々はすべて人間性をそなへたまへる神々です。それですから我々の祖先は、人生の價値を信じ、生き、働き、努力することの光榮をほこつてをりました。さうして、その模範を示したまへるものは、アマテラスオホミカミまであります。

ウケモチノカミ(一名オホゲツヒメ)が殺されておなくなつた時、その五體から米や麥やさまゝの穀物また

蠶や桑などが生じました。大神にはそれを高天原におさりよせになり、天の狹田、長田をつくらせ、天邑君を定めて農業をおはじめになり、また、天機病をおつくりになり、機女さきもに機織をなされました。このやうな貴い神話は、外の國には決してありません。外の國の神話の神様たちは、みな戦争か、歌舞か、酒宴か、戀愛を仕事としてをります。ひまり、まじめな農耕を、天地の主宰たる神様がお親らあそばされるさいふのは、日本の神話のみに見られることで、いかにわが國の神話が、本質的に卓絶してゐるかがうかがはれるのであります。かうした貴い傳統が、日本人を、勤勉、力行の民にしてゐるのであります。わが國は、氣候溫和、地味豊沃ではありますが、山がなく、耕地が少なく、暴風雨や地震の災害多く、天産も決して豊かではありません。それにもかゝはらず、よく天災を克服し産業を振興して、今日のやうな隆々たる國勢を築くに至つたるは、まつたく、天祖以來の、傳統的な現實主義、勤勉力行の精神のためであります。

このウケモチノカミの身を殺して仁を成したまへる御精神ミ、米穀を生みたまへる御功業ミを、アマテラスオホミカミには深く御嘉賞あそばされ、その御靈を奉祀し、天孫の御降臨に際しては、三種の神器さきもにその御靈代をお傳へになりました。今日、伊勢の外宮すなはち豊受大神宮

にまつられたまふのが、この神であります。學童の伊勢參宮に、必ずおまゐりはしてきますが、何故にウケモチノカミガこゝにお祀りしてあるか、そのいはれを十分に學ぶものの少ないのを残念に思ひます。今日、食糧問題が、このやうに切迫してゐるにつけても、天祖以來、國民の生活のために、いかに大御心を勞したまひしかを子供に語り聞かせ、食物を大切に、報恩感謝の心をやしなはしめることが一層必要であると思ふのであります。

最後に申し上げますことは、建國神話を、たゞ一つづつ切り離して、斷片的に話すだけでは、たゞのおはなしにすぎぬものになります。全體としてお話になることはできないにしても、全體に通曉し、全體を通ずる、上述のやうな日本精神を把握して、全體の一部分として話すこいふやうなお心がまへが、あなたにも必要であるを存じます。それにつけましても、苟くも教育の仕事にお當りになる方は、建國説話をよくよく読んでいたゞきたいのであります。

保育實習科生徒 募集について

今年度の東京女子高等師範學校保育實習科生徒募集の大略は次の由にきいて居ります。

(編輯部)

募集人員 凡二十四名

出願期限 二月一日より同月廿九日まで

試験期日 三月七、八日頃

官報廣告 一月十日頃

委細は東京女子高等師範學校教務課(東京小石川區大塚町三五)につきその詳細の點をお聞き下さい。